

## 安全に歩けるみちづくり

歩ける道づくりに取り組んでいます。

昨年一年間に区内で発生した交通事故は二千百九十三件。このうち歩行中や自転車利用中の事故で二人の尊い命が失われ六百七十四人が負傷しました。皆さんにも、事故に至らないまでも、道路を歩いていてヒヤリとしたりハッとした経験はありませんか？

札幌市は、市内九地区を「あんしん歩行エリア」に指定し、誰もが安全に安心して

指定対象となった桑園地区では「あんしん歩行エリア住民検討会」を設置し、昨年八月から、地域住民や地元企業、小学校、警察などが集まり、危険箇所の把握と事故対策の検討を行ってきました。

集めた数々の危険箇所情報を基に、十一月に実際に現地を歩いて状況を確認しました。この結果を子どもにも分かりやすく知らせるために、危険箇所をイラストで示す工夫を



▲子どもに分かりやすいようイラストを用いたヒヤリハット地図



▲検討会で地区ごとに危険箇所の情報を発表

凝らした「ヒヤリハット地図」(左上参照)を作成しました。

地図の裏面には、歩行や自転車に乗る際の交通安全のポイントが掲載されています。完成した地図は、区役所やJR桑園駅などに置いてあります。検討会は二月までで終了しましたが、参加者からは「さまざまな団体と行政が一体となって安心安全なみちづくりに取り組むのは大変意義がある。今後も継続してみちづくりを見守りたい。」との意見が出されていました。

市は、今後実施する競馬場の線歩道拡幅や、交差点改良などに、検討会で出された安全に関する意見を反映させることにしています。

## 地域で防犯を考える

西創成地区では、昨年十一月に「西創成地区地域課題ワークショップ」が開催されました。地域ぐるみで犯罪のない安全なまちづくりに取り組む契機にしようとして西創成親和会が主催し、同地区の防犯担当者ら約三十人が参加しました。

参加者は、防犯活動についてアドバイスを受けた後、パトロールの方策や不法投棄など、地域の課題を話し合いました。



## 雪まつり会場をパトロール

ライトアップされた雪像が立ち並び、大勢の見物客でにぎわったさっぽろ雪まつり大通会場。ここでも防犯活動が行われていました。NPO法人ガーディアン

エンジェルズ札幌支部の皆さんは、普段すすきの周辺などで活動を行っています。安心して雪像見物が出るようにと、おなじみの赤のジャンパーとベレー帽を身にまとい、会場をパトロールしていました。

